
とある少女によって綴られた日記ノート

空牙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある少女によって綴られた日記ノート

【Nコード】

N3132L

【作者名】

空牙

【あらすじ】

これは私の今のところ一番の大作である『そら色ノート』と言う作品のカケラです。

頭の中にはそれなりの物語が作られてるんですがそれを形にするのがなかなか難しいですね。

そら色ノートは、結衣というずっと病院で生活している少女と、その病院に入院することになった少年、礎羅の二人の病院生活を描いた作品です。

この小説では、礎羅が病院に来た日から書き始めた結衣の日記であ

る『そら色ノート』の1ページ1ページを一つの部として書いていきます。時系列順、ノートのページ順というわけではなく、適切にかつ断片的に書いていきます。

ものによってはアナザーストーリー的なものもあり、ページとページで矛盾したりするでしょうが、ページを全て集めると一冊の『そら色ノート』になるわけではありません。

あくまで原作の『そら色ノート』（といっても未発表なわけですが）の二次創作、リメイク版程度の認識で読んでいただけると嬉しいです。

そして物語を紡ぐ方をお願いします。

このノートの断片たちから一冊のノートを完成させてください。

だれかが私の代わりに完成した『そら色ノート』を書いてくださることを願っています。

存在しないページ（設定）（前書き）

この作品の書き方は 小説とは呼べないひどいものですが
ある程度の設定を知らなければ到底理解できないでしょう

ここでは大まかな話の流れや登場人物の紹介をします

また原作（というよりは未完成の設定）と違う部分が多々あります
まあ原作を知る人がほとんどいないですから問題はないですね

存在しないページ（設定）

登場人物

福松 結衣

物語の主人公。

ある病院に入院している16歳の少女。
生まれつき特殊な病気にかかっている。

この病気は今のところ完全な治療ができず、症状を抑えることしかできない。

そのためずっと病院で生活している。

知識として病院の外を知っているが、実際に外にでたことはほとんどない。

病院は基本的に年寄りが多く同年代の子供が少なく、同じ病棟には一人も同年代の子供がいなかったため友達はいない。

礎羅が病院に来てから日記を書き始める。

徐々に礎羅のことを好きになっていき、このノートに『さら色ノート』というタイトルをつける。

礎羅の退院後、死ぬ。

橘 礎羅

風邪のような症状が出て地元の病院にいったところ、特殊な病気で
あることが発覚。

治療のため結衣のいる病院へ来る。

結衣のとなりの病室に入院することになり、病棟で唯一の同年代の
子供だったため、結衣と仲良くなる。

その後徐々に結衣のことを異性として意識していく。

流星群の夜の数日後退院、その後毎日結衣のお見舞いにくる。

ほしづき
星月 春人

礎羅の友達。

礎羅の地元と病院はとても離れているため、お見舞いに来ることができなかつた。

花火大会のときだけ登場。

春人はとても子供っぽい。

たちはなはじめ

橋 一

春人の保護者。生みの親ではなく、年齢も大して大きな差はないため春人の兄として振舞う。

苗字は同じだが礎羅とは他人である。

大まかな流れ

()内はその期間

・ 出会い

礎羅登場、結衣が日記を書き始める。

結衣は学校を知らないため(通信教育である)、学校のことに興味を抱く。

礎羅や結衣の入院理由などが示される。

この時点では橘くん、結衣と呼ぶ。

結衣は病院にいて主に年寄りと会話していたため、結衣ちゃんと呼ばれることになれている。

結衣はあまり病院の中を歩き回れない状態である。

・ 日常(二週間ほど)

学校などの外のことに興味がある結衣に自分の学校のことや部活(予定ではサッカー)のことなどを話す礎羅。

結衣は通信教育なのでその様子を礎羅も見ることになる(結衣のほうが目撃しなく賢い)。

結衣も病院のことなどを礎羅に話す。

結衣は病院を歩き回れるほどに状態がよくなったら病院を案内する

ことを約束する。

トランプなどのゲームであそんだりもする。

・ 日常2 (数日)

結衣の状態が良くなり病院の中を歩きまわれるようになる。

結衣が礎羅を案内する。

結衣がそらくんと呼んでいいかと問う。

そらくんと呼ぶようになる。

・ 七夕

結衣が七夕の解説をする。

礎羅が夜屋上に行こうと誘う。

互いに異性だと意識し始める (結衣のみ描写)。

短冊に願い事を書く。

願い事：俺と結衣の病気が早く治りますように。

願い事：私とそらくんの病気が早く治りますように。

・ 日常3 (一週間)

結衣の状態が良くなっていく。

礎羅の状態はあまり変化なし。

礎羅は、このまま行けば二人とも退院できるかもと喜ぶ。

結衣は、常識のない自分が外の世界に出るのが怖いという。

礎羅は、俺がいるから大丈夫だと元気付ける。

・ 一さん登場

一さんがお見舞いにくる。

・ 日常4 (一週間)

結衣が祭り&花火大会のポスターを見つける。

礎羅が花火大会に行きたいかを問う。

結衣は行けないと言ったが、礎羅にもう一度問われ行きたいと答える。

礎羅が電話で一に準備を頼む。

・ 花火大会

結衣と礎羅が病院から抜け出す。

一と春人が車で結衣と礎羅を迎えに来る。
浴衣に着替える。

一から二人にお小遣いがでて祭りではしゃぐ。
花火大会へ向かう。
着替える。

変える途中で礎羅が発作を起こす。
病院の近くまで車で送るが、迷惑をかけたくないと礎羅は結衣と二人で病院にもどろうとする。

春人が礎羅を負ぶって病院にもどる。

・ 日常5（一週間）

礎羅はしばらく病室から出れなくなる。

結衣も勝手に外に出た罰として病室から出ないように言われる。
一が結衣の病室を訪れる。

・ 流星群の夜

礎羅の状態が安定し、病室を出れるようになる。

結衣の外出禁止も解除される。

今回の発作で礎羅の病気の原因らしきものが判明する。

礎羅が今日が流星群の夜であることを結衣に教える。

夜、二人は屋上へ行く。

二人は願う。

願い事：結衣の病気が早く治りますように。 結衣が幸せになれるように。

願い事：そらくんとずっと一緒にいたい。そらくんの病気が治りませんように。

結衣は礎羅に何を願ったか聞く。

礎羅は願い事の前半のみ答える。

ついでに俺の病気も治りますように、と付け足す。

結衣が泣き出す。

流れで結衣が告白する。

礎羅は自分がもうすぐ退院するかも知れないことを結衣に話す。

その後礎羅が約束する。

約束：退院しても、ずっと結衣のそばにいる。

・礎羅退院

流星群の夜の数日後、礎羅は退院する。

・日常6（三週間）

毎日礎羅が来る。

結衣の状態は、徐々に悪くなっていく。

・結衣死亡

礎羅は結衣に電話をかけ、お見舞いに行けないことを話す。

結衣の病気が急激に悪化し、死亡する。

存在しないページ(設定)(後書き)

この部は随時変更されます

存在しないページ（彼女の心のノートのページ）（前書き）

これは結衣の死の直前の想い

彼女の心のノートのページ

そらは礎羅です

でも彼女はそらとは呼びませんそらくんと呼びます

存在しないページ（彼女の心のノートのページ）

そらの強く輝いているものに惹かれ

私はそらに牽かれて

そらに咲く火花をみた

暗いなか隣に咲いた笑顔は

私の心を狂わせた

星の降り注ぐ夜

そらの温かさに気付いた私は

抑えきれなくなつた想いを

そらに放つた

ごめんなさい・・・

私の歪な愛を

そらは優しく包み込んで

受け入れてくれた

それでも私は歪んでいて

そらが必要だつた

いつでも見れたそらが

見れなくなつただけで

毎日見ていたそらが

見えなくなつただけで

こんなに苦しいと思わなかつた

歪んだ私を受け入れてくれてありがとう

大好きだよ

でももう私は耐えられない

そらが欠けた世界で

私は生きていけないから

そらが欠けてしまう前に・・・

さようなら

存在しないページ（彼女が死んでから五年後）（前書き）

病院名や名前を結構適当につけてます。

正式設定ではないです。

存在しないページ（彼女が死んでから五年後）

会社から帰り、ふうっと息をはく。

連日の残業により疲れも溜まってきている。

まだ昼間、世間では最も活発に活動するであろう時間は私にとっては眠る時間だった。

風呂に入る元気も無く、ソファーに腰をかけそばにあった毛布にくるまった。

起きてから風呂に入ろう。そんなことを考えながらまどろみに身を委ねた。

そんなとき電話がなった。

頭に響く音で現実に戻された。

私は急いで受話器をとった。

「もしもし、福松です。」

「お久しぶりです。以前娘さんの結衣さんの担当医だった高嶺橋中央病院の竹田です。」

高嶺橋中央病院、懐かしい名前だ。

それは私の娘、結衣が入院してた病院だった。

しかし、結衣が亡くなったのはもう5年も前のこと。

今ごろ何の用があるというのだろうか。

「驚くことが起きたんです。以前結衣さんが使っていた病室でノートが見つかったんですよ。」

「ノート、ですか。」

「ええ。今その病室を使ってる患者さんが見つけましてね。まるで隠すように棚の裏に隠してあったそうです。結衣さんの名前が書いてありまして、どうやら日記のようです。こちらで保管しているの

で取りに来ていただけですか。」

「わかりました。これから伺います。では、失礼します。」

結衣の日記、か。

結衣が亡くなって5年、当時はあれほど悲しかったのに今では何事も無かったかのように生活している。

結衣がいた頃が懐かしい。

疲れきった体にいうことをきかせ、病院へと向かった。

「お久しぶりです。竹田先生。」

「いやはや、5年ぶりですな。すみませんが忙しくてね。時間が無いのでとりあえずこれを。」

手渡されたのは空色のノートだった。

表紙には『そら色ノート』と書かれていた。

「では、患者さんが待っているのですね。これで失礼させてもらいますね。」

「お忙しい中わざわざありがとうございます。」

家に帰りノートを開いた。

体の疲れも忘れ、娘の日記を読みつくした。

もう流しつくしたはずの涙を流しながら、ページをめくり続けた。

何度も何度も出てくる『そらくん』という言葉。

この日記を見るだけで、どれだけ彼を好きでいたかがよくわかる。

『そらくん』に会いたい。

私は強く思った。

娘がこれほど想ったのは一体どんな人なのか知りたかった。

そして私は電話をかけた。

存在しないページ（彼女を失った彼の想い）（前書き）

結衣が死んでから数年後の話

存在しないページ（彼女を失った彼の想い）

空には星の花火 美しい流星群

それはまるであの日のようだった

昔もこんな流星群の日があったよなあ…

なあ 礎羅… 憶えてるか？

忘れるはずがない

あの日の空も

彼女の想いも

彼女の涙も

全部

結衣を抱きしめたあの日を

そら色ノートに綴られたあの日々を

全部抱えて 俺は生きていくんだ

お…おい どうした？

突然泣くなんて…

そっか あの流星群の日は結衣ちゃんがいた頃か

結衣ちゃんのこと思い出したのか？

好きだったんだろ？ あの子のこと

好きだったんじゃない

好きなんだ 今でもずっと…

存在しないページ（彼女を失った彼の想い）（後書き）

一応花火大会で登場する春人（仮）との対話（一方的に春人が話してるだけだけれども）です

礎羅を生かしておきました（初期では死にました） 結衣は予定通り礎羅退院後死にます

昔の礎羅は子供っぽいって設定にしていますが（春人はそれ以上に子供っぽいですが）

この礎羅は口数が減りました 今回は0です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3132/>

とある少女によって綴られた日記ノート

2010年10月8日11時50分発行